**研究機関名：下関市立市民病院**

**研究課題名：**開胸心臓手術後患者におけるリハビリテーション実施時間が主要心脳血管イベントに及ぼす影響

**研究期間：**2026 年 1 月 1 日～2026 年 7 月 19 日

**対象材料：**

□病理材料（対象臓器名：　　）

□生検材料（対象臓器名：　　）

□血液材料

□遊離細胞

■その他（診療録　）

上記材料の採取期間：2021 年 4 月～　2024 年 12 月

**意義：**心臓手術の件数は年々増加しており、本邦では年間 7 万人以上に実施されている。手術手技や周術期管理の進歩により適応が拡大し、高齢患者の割合も増加傾向にある。一方で、一定の割合で術前と比較して退院時に日常生活活動（Activities of daily living：ADL）や身体機能の低下が生じ、これらは退院後の生存率や心血管イベントの発生に影響することが報告されている。したがって、術後の ADL および身体機能低下の予防は臨床における重要な課題である。心不全患者においては、入院中のリハビリテーション実施量が ADL の回復や入院関連能力低下（Hospitalization-Associated Disability：HAD）の発生に影響し、さらに退院後の生存率や心血管イベントの発生とも関連することが報告されている。これらの知見から、心臓手術後患者においても入院中のリハビリテーション実施量が長期予後に影響を及ぼす可能性が示唆される。しかしながら、心臓手術後患者を対象として、リハビリテーションの「実施量」、特に実施時間と主要心脳血管イベント（Major Adverse Cardiac and Cerebrovascular Events：MACCE）との関連を検討した報告は乏しく、臨床的に有用な実施量の指標は明らかとなっていない。

**目的：**開心術後患者における入院中のリハビリテーション実施時間と MACCE との関連を検討し、臨床的に有用な実施時間のカットオフ値を明らかにすること。

**方法：**当院の患者データベースおよび電子カルテより後方視的に通常診療の範囲内で得られる患者基本情報や医学的情報、治療経過、リハビリテーション経過、術後・退院時の身体機能評価、入院前のリハビリテーション総実施日数、総実施単位数、予後イベントの有無（MACCE）を診療録より収集する。

**個人情報の取り扱い：**患者様の個人情報は、個人を特定できる情報とは切り離した上で使用する。また、研究成果を理学療法関連学会で発表するが、患者様個人を特定できる個人情報は含まない。

**問い合わせ・苦情等の窓口：**

〒７５０－８５２０
山口県下関市向洋町一丁目１３番１号
下関市立市民病院　リハビリテーション部　月城　一志
TEL　０８３－２３１－４１１１　　FAX　０８３－２２４－３８３８